お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 246
内装の手入れ..... 251
アルカンターラ®の
手入れ..... 254
タイヤについて..... 256

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 261
タイヤの交換..... 264
電球（バルブ）の交換..... 271
ヒューズの点検、交換..... 284
キーの電池交換..... 290
ウォッシャー液の補給..... 294
エアコンフィルターの
交換 296

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

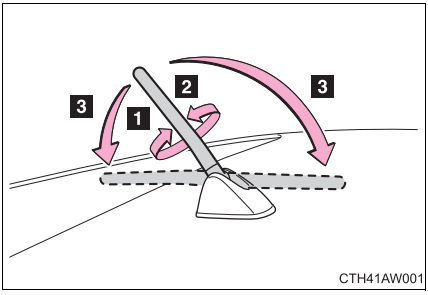
- 水を十分かけながらボディ、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう

  ボディの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボディコート、ホイールコートなどを施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはスバル販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。



1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

知識

■自動洗車機を使うときは

●ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取りつけて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。

●リヤスポイラー装着車：洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。

●洗車の前に車両のフューエルリッド（燃料補給口）がしっかり閉まっていることを確認してください。

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を痛めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■バンパーなどの樹脂部品

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■**洗車をするときは**

●エンジンルーム内には直接水をかけないでください。エンジン始動不良やエンジン不調、電気部品、配線部、パワーステアリングの故障、クラッチ切れ不良、ブレーキの効き不良などの原因につながるおそれがあります。

●洗車後はブレーキの効きが悪くなることがあります。
ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に充分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んでください。

■**排気管およびデュアルテールパイプについて**

排気管およびデュアルテールパイプは排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管およびデュアルテールパイプが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■**塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・鳥のふん、樹液、コールタール、花粉、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■**サイドシルプレート★の保護フィルムについて**

保護フィルムは必ずはがしてください。状況によっては錆の原因になるおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

注意

■**ランプの清掃**

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけをおこなわないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■**フロントワイパーアームの損傷を防ぐために**

フロントワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、元に戻すときは、必ず助手席側から先に戻してください。

■**アンテナの損傷を防ぐために**

次のようなときはアンテナを格納してください。

●車庫の天井などにアンテナがあたるとき

●カーカバーをかけるとき

●自動洗車機を使うとき

■**アンテナの取りはずしについて**

●通常走行時には、必ずアンテナを取りつけてください。

●洗車時などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取りつけてください。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れがひどいときは中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませ、汚れをふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。（→P. 70）

警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。（→P. 97）
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

●エアコンなどの電装品や各種スイッチ、ならびにこれらの周辺の清掃には、シリコーン（ケイ素高分子化合物）を含有するケミカル剤を使用しないでください。
これらの部品にシリコーン（ケイ素高分子化合物）が付着した場合は、電装品の故障の原因となるおそれがあります。

■革の傷みをさけるために

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

●革についたほこり、砂、油汚れなどはすぐに取り除く。

●直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボディが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドゥガラスの内側を掃除するときは

●電熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

●電熱線を損傷するおそれがあるため、ガラス洗浄剤などを使わず、電熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

■インストルメントパネルの手入れをするときは

インストルメントパネル表面に細かい砂粒などが入り込んで布で拭き取れないときは、鉄粉除去用粘土を水でぬらさず使用してください。ブラシやスポンジなどを使用して無理に拭き取ろうとすると、表面を傷付けたりスポンジの破片が残ってしまうおそれがあります。

アルカンターラ® の手入れ★

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 日常的なお手入れ

このお手入れは定期的（1ヶ月に 1 回程度）に行うと効果的です。

手順 1 布などに 40 ℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り全体を拭く

毛羽が強く乱れないように拭き取ってください。また、布はきれいなものを用意し、一度拭き取った布の汚れはすすいで充分に取り除いてからご使用ください。

手順 2 乾いたらエチケットブラシなどで毛並みを整える

■ 液体汚れについて

- 液体がこぼれた場合は、ティッシュペーパーなどを軽くあてて吸い取る
- 乾燥して固着してしまった泥やコーヒーなどの汚れは、エチケットブラシなどで汚れ部分を軽くブラッシングして取り除く

その後、掃除機で乾燥汚れを吸い取ることをおすすめします。

これらの方法で汚れが取れない場合は、以下の手順で汚れを取り除いてください。

手順 1 布などに 40 ℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り、汚れ部分を外側から内側に各方向から軽く拭く

毛羽が強く乱れないように拭き取ってください。また、布はきれいなものを用意し、常にきれいな部分を使用してください。

手順 2 表面の毛羽が乱れた場合は、エチケットブラシなどで軽くブラッシングする

手順 3 表面を完全に乾燥させる

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■油性の汚れについて

用意するもの

- ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布
- 乾いた布

手順 1 乾いた布やティッシュペーパーで汚れが広がらないようにできるだけ拭き取る

手順 2 ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布で汚れ部分を外側から内側にたたいた後、乾いた布で浮いた汚れをたたきながら吸い取る

手順 3 表面の毛羽が乱れた場合は、エチケットブラシなどで軽くブラッシングする

知識

■毛羽の付着汚れを取り除くときは

ほこりなどの付着汚れはエチケットブラシなどで軽くブラッシングして取り除いてください。それでも取れない場合は粘着テープを使用して取り除いてください。

注意

■液体汚れを吸い取るときは

ティッシュペーパーなどを強く押さえすぎないでください。汚れがシートにしみ込み取りにくくなるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩擦を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000 km ごとにおこなってください。

■ タイヤの点検項目

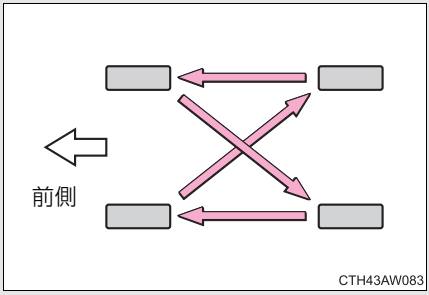
タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションの仕方

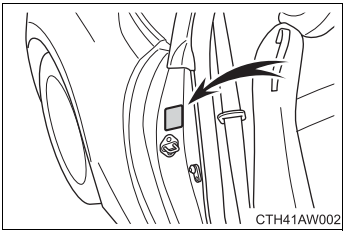


図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、スバルは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値



前輪：240 kPa (2.4 kg/cm^2)

後輪：240 kPa (2.4 kg/cm^2)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、スバル販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（17 インチタイヤ装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤと比べてグリップ力が低下します。冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）かタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（17 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。とくに空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●4 輪とも必ず、指定サイズ・同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。

●ラジアルタイヤ以外を使用しないでください。

●サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しないでください。

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

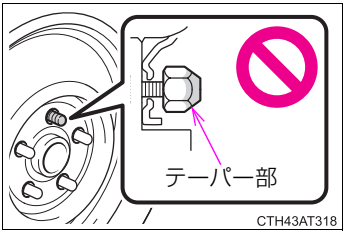
●破裂などの修理できない損傷をあたえる

●車が横すべりする

●車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

警告

■**タイヤ交換時の注意**



●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

注意

■**低偏平タイヤについて（17 インチタイヤ装着車）**

低偏平タイヤ付きホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため以下のことにご注意ください。

●適切なタイヤ空気圧で使用してください。空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■**走行中に空気漏れが起こったら**

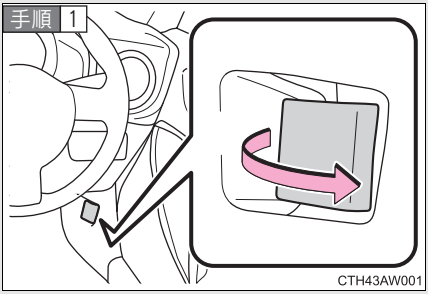
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

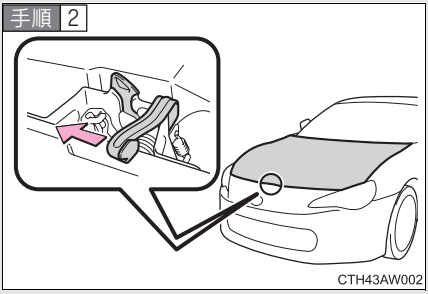
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

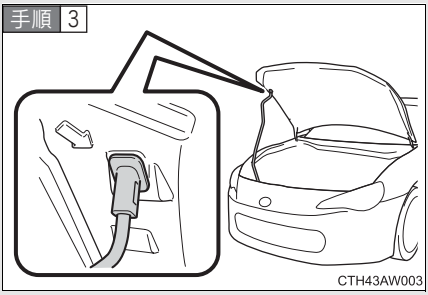


ボンネットオープナーレバーを引く

ボンネットが少し浮きあがります。



レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



ボンネットステーをステー穴に挿し込む

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、スバル販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。

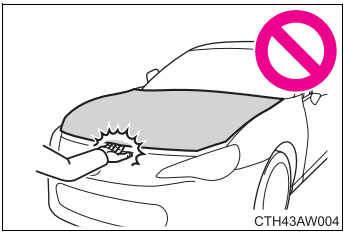
■けがを防ぐために

- 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：ボンネットを開ける前にエンジンスイッチを“LOCK”にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。
- キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：ボンネットを開ける前にプッシュエンジンスイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは



- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ステーを外してホルダーに収め、ボンネットをゆっくり降ろしてボディに近くなったら（約 30 cm）手を離します。
確実にロックされていることを確認してください。

注意

■**ボンネットを開けるときには**

●フロントワイパーアームは起こさないでください。また、フロントワイパーを作動させないでください。ボンネットとフロントワイパーアームが接触しボンネットを傷つけるおそれがあります。

●風の強いときには充分注意して開けてください。ボンネットが閉まることがあります。

●ボンネットにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。ボンネットの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。

■**ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

タイヤの交換

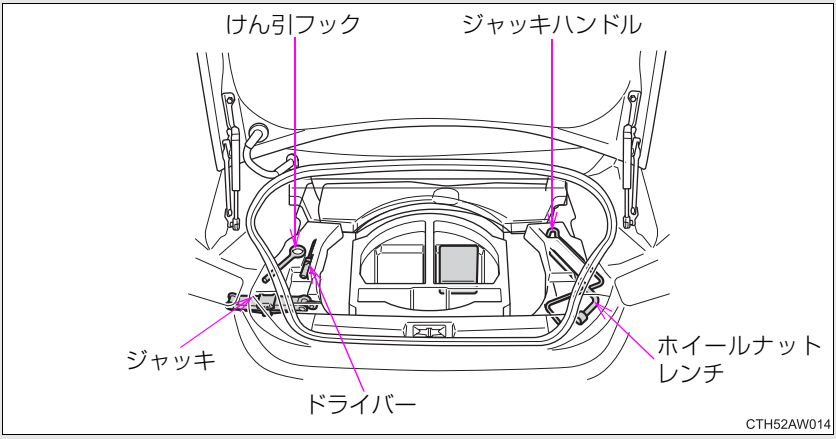
ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

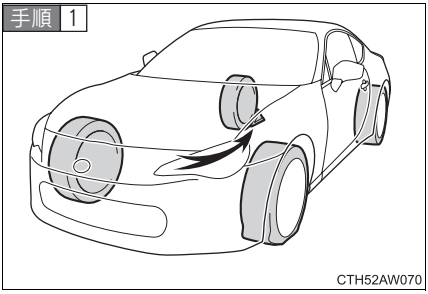
- 地面が固く平らな場所に移動する
- 駐車ブレーキをかける
- オートマチック車はセレクトレバーを P に入れる
- マニュアル車はチェンジレバーを R に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置



タイヤの交換

手順 1

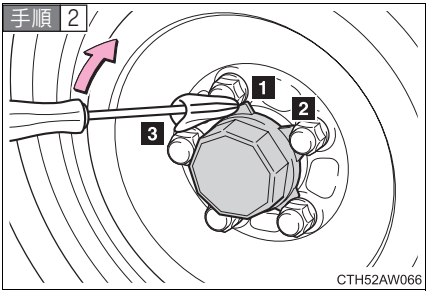


輪止め※をする

交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

手順 2

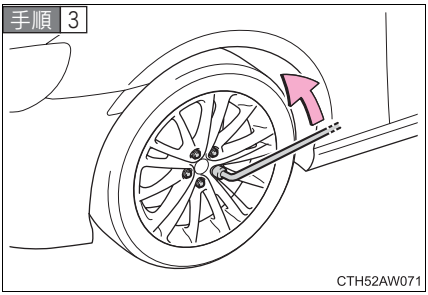


スチールホイール装着車：センターキャップを取りはずす

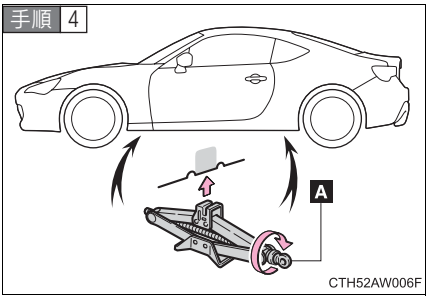
マイナスドライバーを使用して、図の番号順でセンターキャップのツメを外してください。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

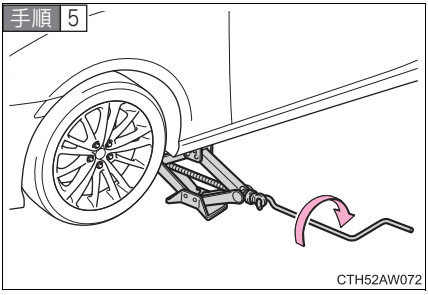
手順 3



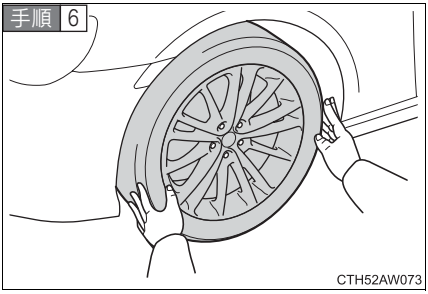
ナットを少し（約 1 回転）緩める



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



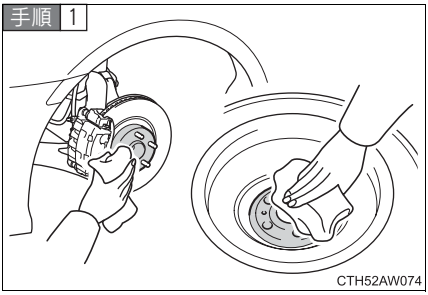
タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする。

タイヤの取り付け

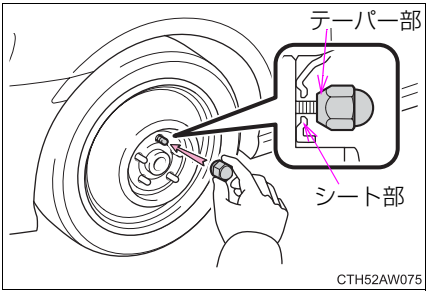


ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットが緩み、タイヤがはずれるおそれがあります。

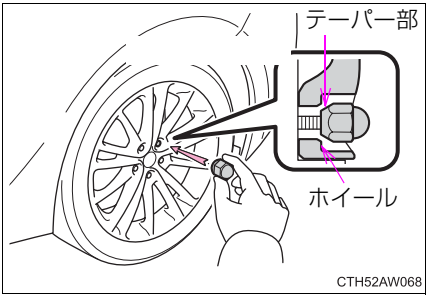
手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールをかえるとき

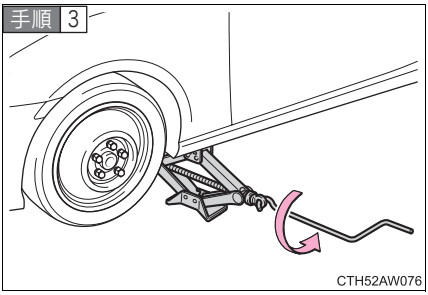


ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

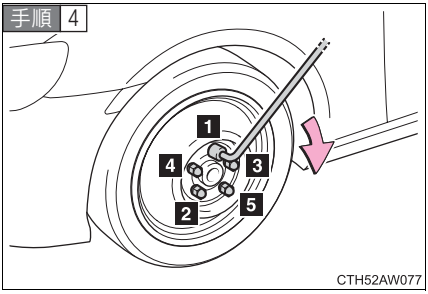
アルミホイールをかえるとき



ナットのテーパー部がホイールに軽くあたるまでまわす



車体を下げる



図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

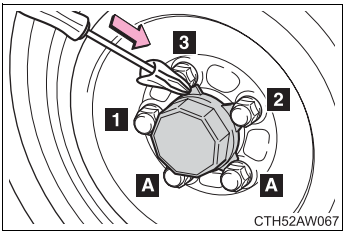
締め付けトルク：

120 N・m (1224 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキを収納する

知識

■センターキャップの取り付け（スチールホイール装着車）



図のように A をナットに取り付けたあと、マイナスドライバーを使用して図の番号順でセンターキャップのツメを押し込む

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

警告

■**ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■**タイヤ交換について**

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 120 N・m（1224 kgf・cm）の力でナットをしめる
・タイヤの取りつけには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スバル販売店で点検を受ける。
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→P.259）

注意

■**ジャッキの収納について**

ジャッキをジャッキホルダーへ収納するときは、ジャッキハンドル取付け部をトランク内側へ向けて収納してください。逆向きに収納すると、車体を損傷するおそれがあります。

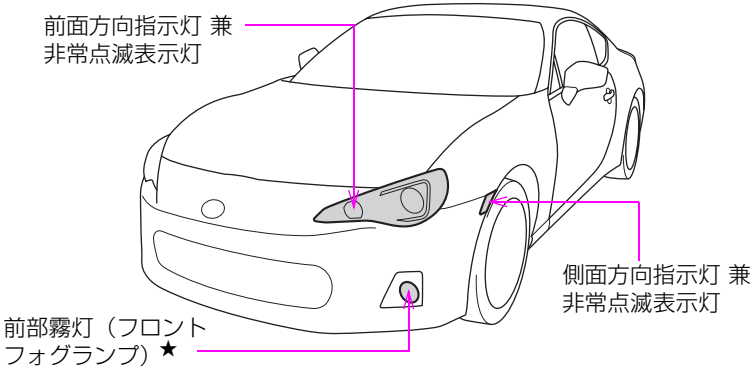
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、スバル販売店で交換することをおすすめします。

■ 電球の用意

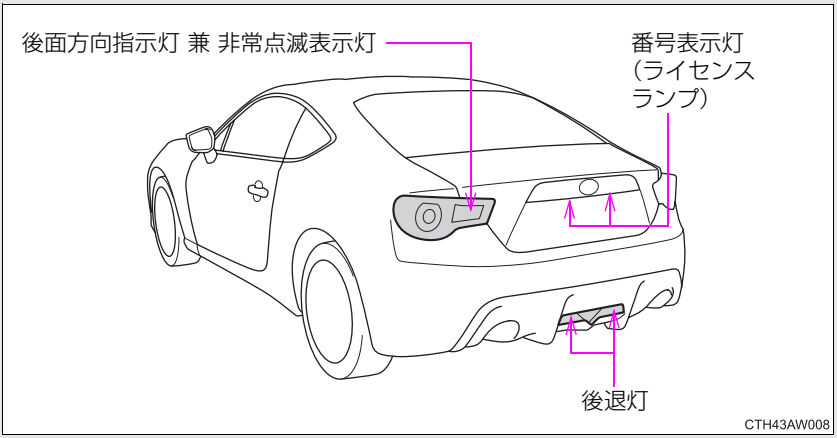
切れた電球の W 数を確かめてください。（→P. 354）

■ フロントのバルブ位置

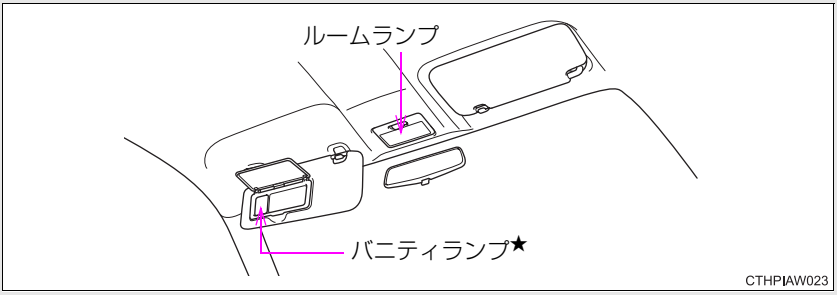


★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置



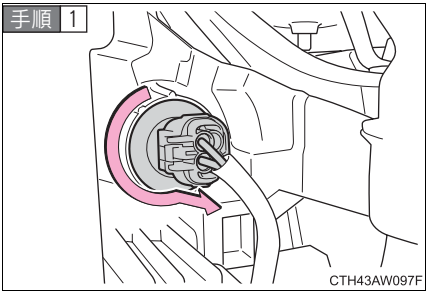
■ 室内のバルブ位置



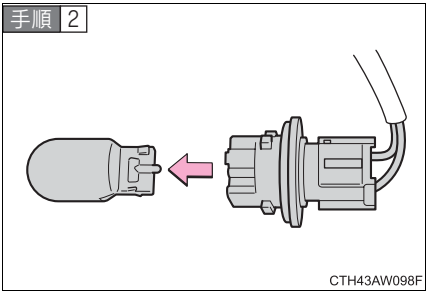
★：仕様により異なる装備やオプション装備

電球交換の仕方

■ 前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯



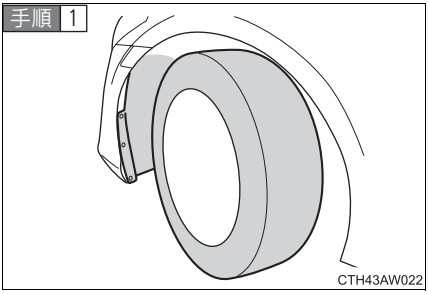
ソケットを取りはずす



電球を取りはずす

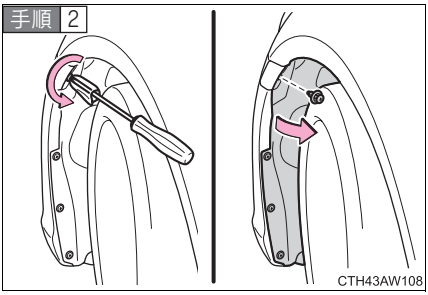
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯



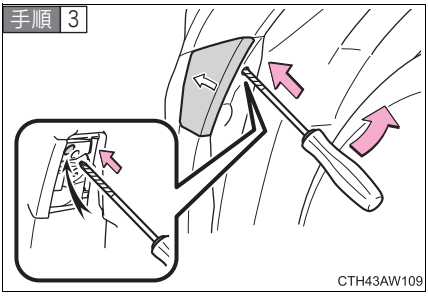
交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

手が十分に入る程度にハンドルをまわしてください。



クリップを取りはずしてマッドガードをめくる

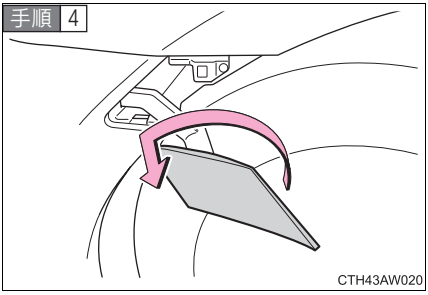
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



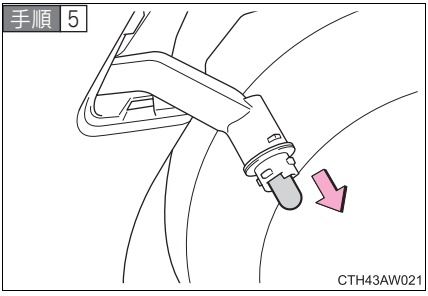
ランプ本体のツメをはずす

ドライバーを穴にさしこみ強めに押しながら、車両内側に動かしてください。

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



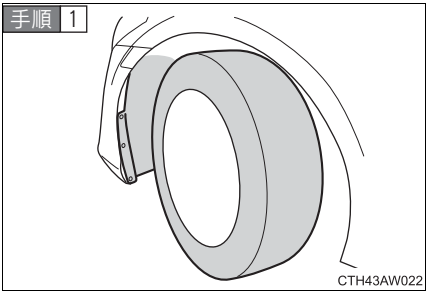
ランプ本体を引き出し、レンズを取りはずす



電球を取りはずす

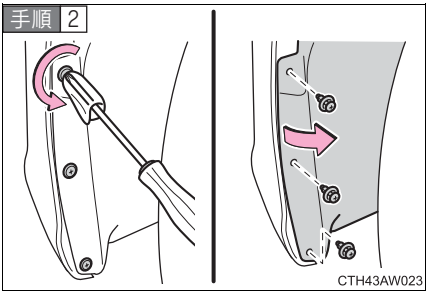
手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 前部霧灯（フロントフォグランプ）★



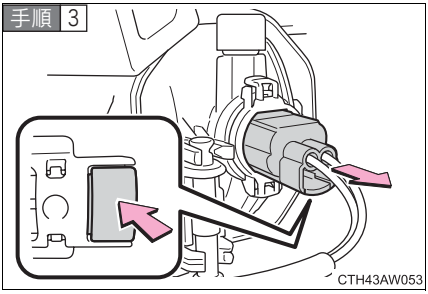
交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

手が十分に入る程度にハンドルをまわしてください。

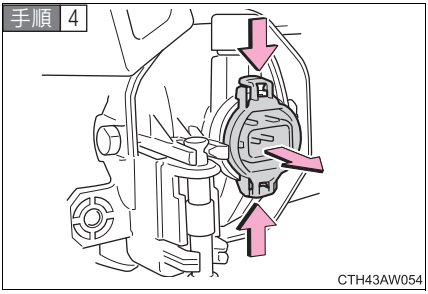


クリップを取りはずし、マッドガードをめくる

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



コネクターを取りはずす

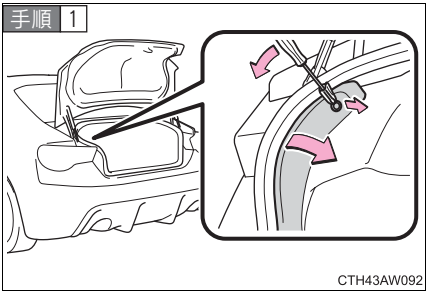


電球を取りはずす

★：仕様により異なる装備やオプション装備

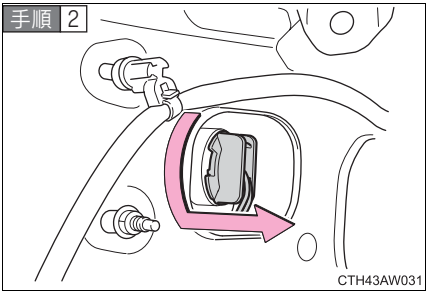
手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

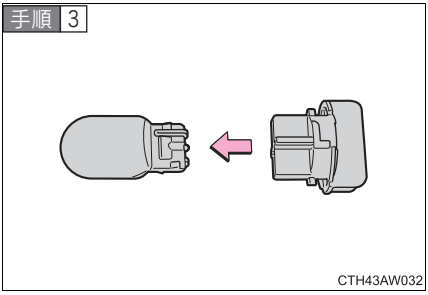


トランクマット装着車は、クリップを取りはずし、カバーをめくる

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



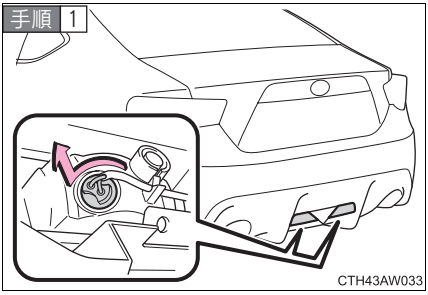
ソケットを取りはずす



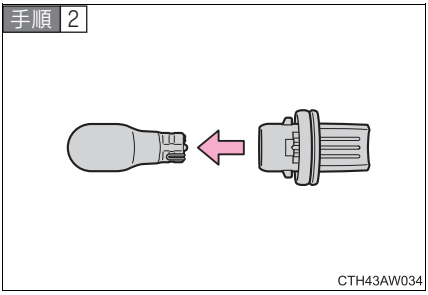
電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯



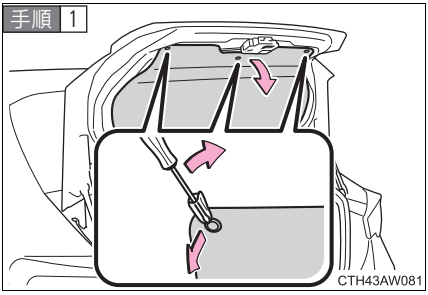
ソケットを取りはずす



電球を取りはずす

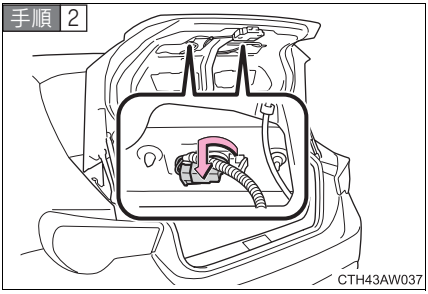
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号表示灯（ライセンスランプ）

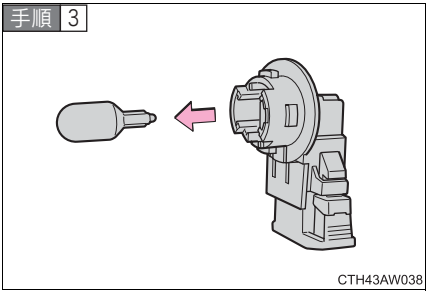


トランクリッドトリム装着車は、クリップを取りはずし、トリムをめくる

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



ソケットを取りはずす

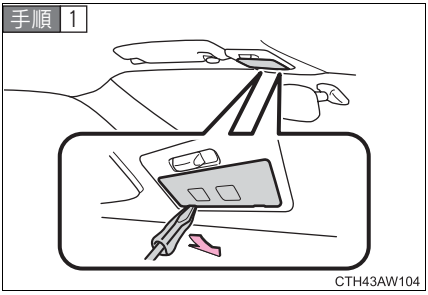


電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ ルームランプ

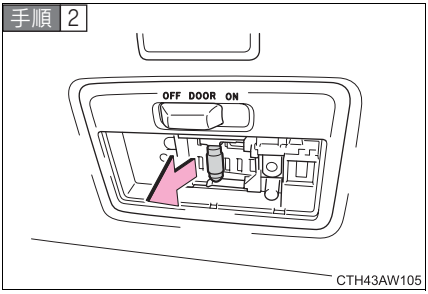
手順 1



レンズを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

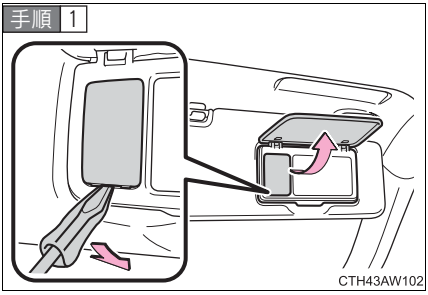
手順 2



電球を取りはずす

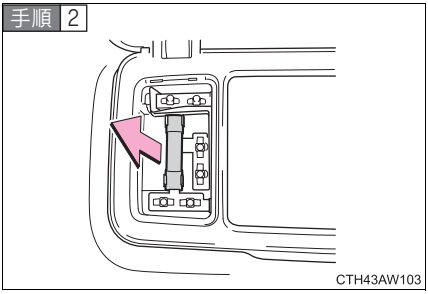
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ バニティランプ★



カバーを開けてレンズを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、スバル販売店で交換してください。

- 前照灯（ヘッドランプ）ロービーム／ハイビーム
- 車幅灯（ポジションランプ）
- 尾灯 兼 制動灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、スバル販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ランプ内に水がたまっている

■HID ヘッドランプの作動

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常に戻ると再点灯します。

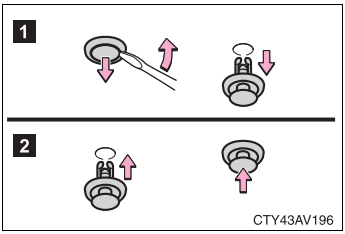
■LED ランプについて

尾灯 兼 制動灯・車幅灯・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、スバル販売店で交換してください。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているスバル純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のスバル純正品以外は使用できない場合があります。

■トランク内クリップの取り付け、取りはずし方



1 取りはずす

2 取り付ける

警告

■電球を交換するときは

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電による重大な傷害の原因となります。

■後退灯を交換するときは

エンジンを停止して、十分に排気管が冷めてからにしてください。近くに排気管があるため、やけどをするおそれがあります。

警告

■HID ヘッドランプについて

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずスバル販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 25000 ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

手順 1 **キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外**

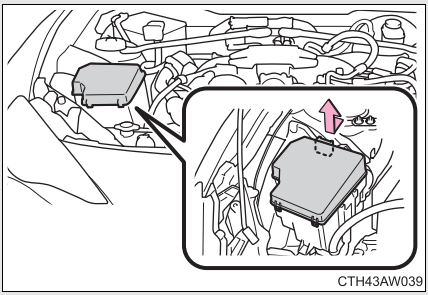
エンジンスイッチを“LOCK”にする

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチを OFF にする

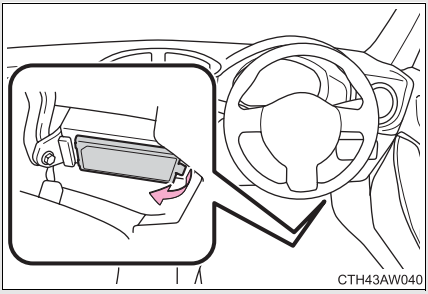
手順 2 ヒューズボックスを開ける

エンジンルーム



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

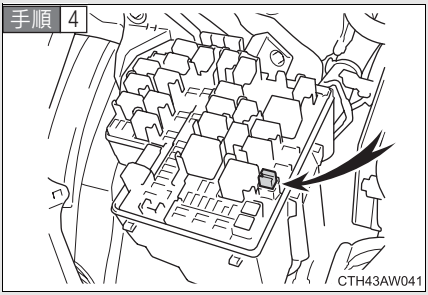
運転席足元



カバーを取りはずす

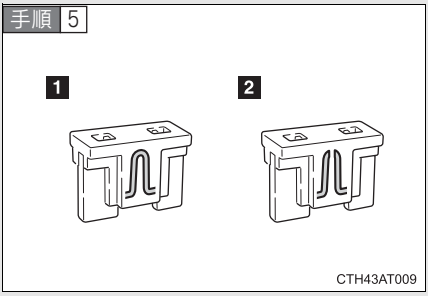
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」（→P. 286）で確認する

手順 4



ヒューズプラーでヒューズを引き抜く

手順 5



ヒューズが切れていないか点検する

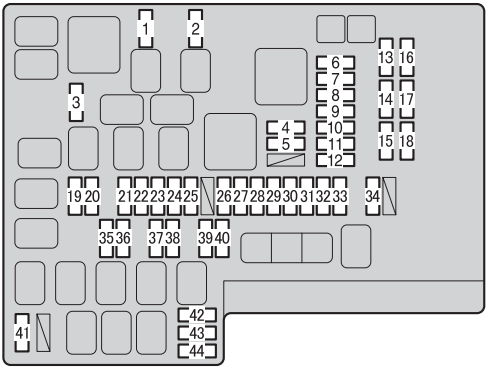
1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム



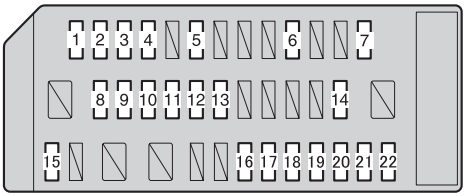
CTH43AW116

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	MIR HTR	7.5 A	ヒーテッドドアミラー
2	RDI	25 A	電動クーリングファン
3	(PUSH-AT)	7.5 A	エンジンコントロールユニット
4	WASHER	10 A	ウォッシャー
5	WIPER	30 A	フロントワイパー
6	RR DEF	30 A	リヤウインドゥデフォッガー
7	(RR FOG)	10 A	リヤフォグランプ
8	D FR DOOR	25 A	パワーウインドゥ (運転席側)
9	(CDS)	25 A	電動クーリングファン
10	D-OP	25 A	—
11	ABS NO. 2	25 A	ABS
12	D FL DOOR	25 A	パワーウインドゥ (助手席側)
13	SPARE	※	予備ヒューズ
14	SPARE	※	予備ヒューズ
15	SPARE	※	予備ヒューズ
16	SPARE	※	予備ヒューズ
17	SPARE	※	予備ヒューズ
18	SPARE	※	予備ヒューズ
19	ST	7.5 A	始動系
20	ALT-S	7.5 A	充電系

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
21	(STR LOCK)	7.5 A	ステアリングロック
22	D/L	20 A	ドアロック
23	ETCS	15 A	エンジンコントロールユニット
24	(AT+B)	7.5 A	トランスミッション
25	(AM2 NO. 2)	7.5 A	キーレスアクセス＆プッシュスタート
26	EFI (CTRL)	15 A	エンジンコントロールユニット
27	EFI (HTR)	15 A	EGI（電子制御燃料噴射装置）システム
28	EFI (IGN)	15 A	始動系
29	EFI (+B)	7.5 A	エンジンコントロールユニット
30	HAZ	15 A	方向指示灯、非常点滅灯（ハザードランプ）
31	MPX-B	7.5 A	フルオートエアコン、メーター
32	F/PMP	20 A	EGI（電子制御燃料噴射装置）システム
33	IG2 MAIN	30 A	SRS エアバッグシステム、エンジンコントロールユニット
34	DCC	30 A	ルームランプ、ワイヤレスドアロック、メインボディ ECU
35	HORN NO. 2	7.5 A	ホーン
36	HORN NO. 1	7.5 A	ホーン
37	H-LP LH LO	15 A	左側ヘッドランプ（ロービーム）
38	H-LP RH LO	15 A	右側ヘッドランプ（ロービーム）
39	H-LP LH HI	10 A	左側ヘッドランプ（ハイビーム）
40	H-LP RH HI	10 A	右側ヘッドランプ（ハイビーム）
41	A/B MAIN	15 A	SRS エアバッグシステム
42	ECU-B	7.5 A	ワイヤレスドアロック、メインボディ ECU
43	DOME	20 A	ルームランプ
44	IG2	7.5 A	エンジンコントロールユニット

※：予備ヒューズは、それぞれ 7.5 A、10 A、15 A、20 A、25 A、30 A のいずれかが挿さっています。

■ 運転席足元



CTH43AW117

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ECU ACC	10 A	メインボディ ECU、ドアミラー
2	P/POINT No.2	15 A	電源ソケット
3	PANEL	10 A	イルミネーション
4	TAIL	10 A	尾灯
5	DRL	10 A	—
6	STOP	7.5 A	制動灯
7	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
8	HEATER-S	7.5 A	エアコン
9	HEATER	10 A	エアコン
10	FR FOG LH	10 A	左側フロントフォグランプ
11	FR FOG RH	10 A	右側フロントフォグランプ
12	BK/UP LP	7.5 A	後退灯
13	ECU IG1	10 A	ABS、エレクトリックパワーステアリング
14	AM1	7.5 A	始動系
15	AMP	15 A	—
16	AT UNIT	15 A	トランスミッション
17	GAUGE	7.5 A	メーター、キーレスアクセス＆プッシュスタート
18	ECU IG2	10 A	エンジンコントロールユニット
19	SEAT HTR LH	10 A	シートヒーター (助手席側)
20	SEAT HTR RH	10 A	シートヒーター (運転席側)
21	RADIO	7.5 A	—
22	P/POINT No.1	15 A	電源ソケット

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 271）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずスバル純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、スバル販売店で点検を受けてください。

キーの電池交換

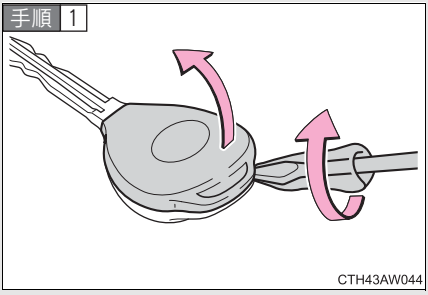
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池
  - ・CR2016（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）
  - ・CR1632（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

■ 電池交換のしかた（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）

手順 1

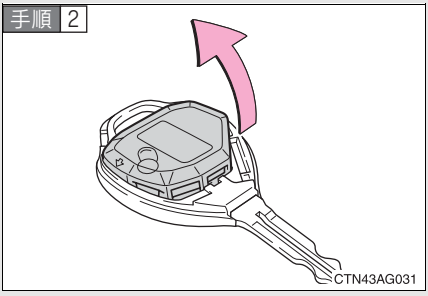


カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

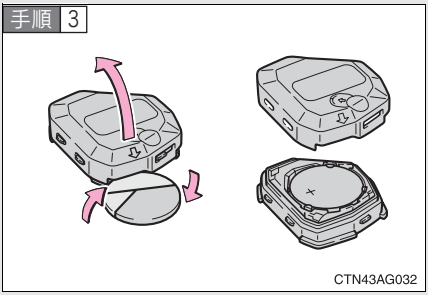
ボタンがはずれないように、ボタン面を下にしてください。

手順 2



モジュールを取り出す

手順 3



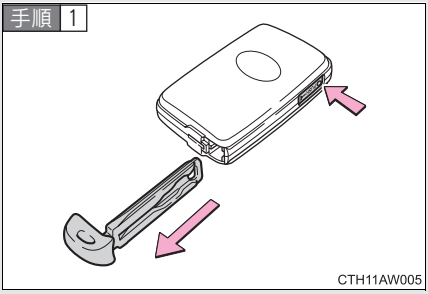
コインなどを使ってカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

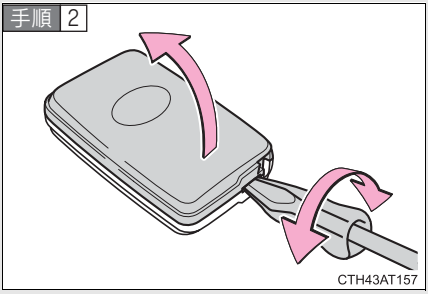
■ 電池交換のしかた（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

手順 1



メカニカルキーを抜く

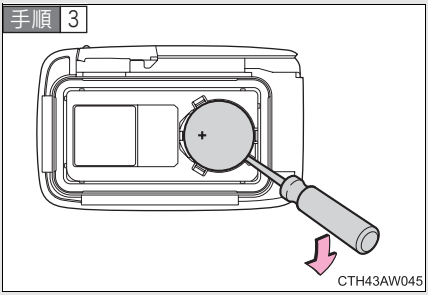
手順 2



カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

手順 3



消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2016（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）、CR1632（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）の入手

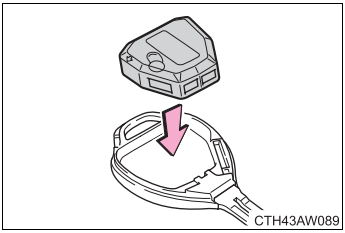
電池はスバル販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ●キーレスアクセス＆プッシュスタート★、電波式リモコンドアロックが作動しない
- ●作動距離が短くなる

■モジュールをもどすときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）



モジュールをもどすときは、真上から置いてください。横から滑らすように置くと、キーボタン作動が正常に働かないことがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■**取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

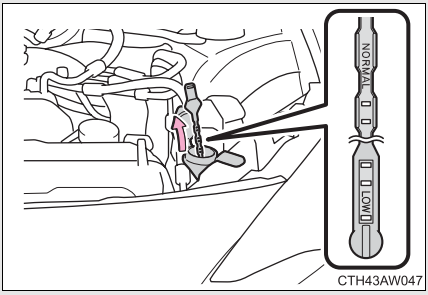
注意

■**交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

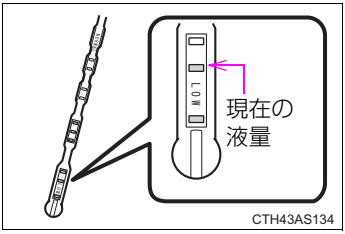
ウォッシャー液の補給



液面がLOWの位置に近付いたらウォッシャー液を補給する

知識

■ゲージの使い方



ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から２つめの穴部より下まわった（ＬＯＷ の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■**ウォッシャー液の薄め方**

必要に応じて水で薄めてください。
水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

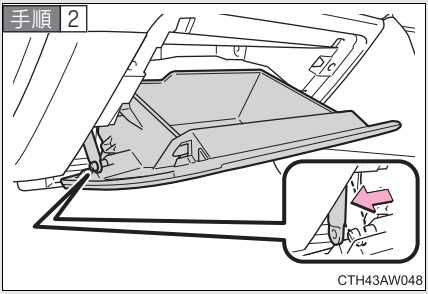
■ 交換のしかた

手順 1 **キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外**

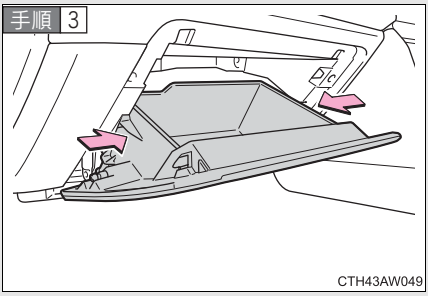
エンジンスイッチを“LOCK”にする

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

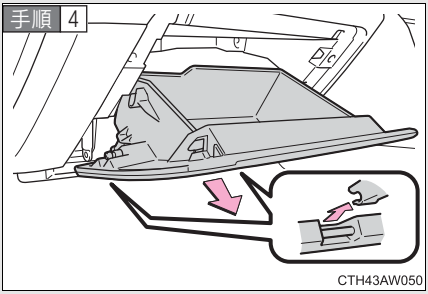
プッシュエンジンスイッチを OFF にする



グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

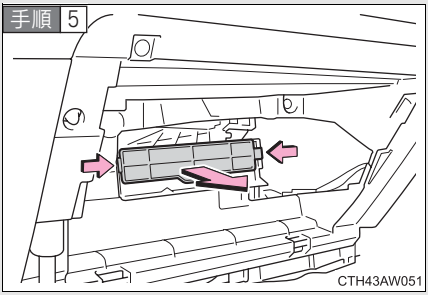


グローブボックス側面を内側に押して上部のツメをはずす



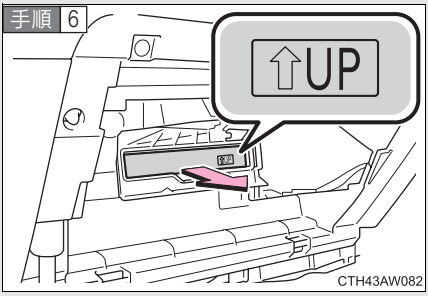
グローブボックス下部のツメをはずして取りはずす

手順 5



フィルターカバーを取りはずす

手順 6



フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは 12000km または 12ヶ月毎に交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■**エアコンを使用するときの注意**

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

●フィルターは、交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。